



現状認識

さて、現在の燕市、そして未来の燕市について、皆さまはいかがお考えでしようか。燕市は、鈴木前市長のもと、全国に先駆けて3つの人口戦略に積極的に取り組んできた結果、新潟県内の20市中、人口減少率は少ない方から2番目を維持しております。しあその一方で、出生数は、最新値で年間387人にまで減少しており、人口減少が進む大きな要因となっています。出生数の減少を抑制し、人口の減り幅ができるだけ緩や

市を含む市職員としての行政経験、民間企業勤務での実務経験、自ら立ち上げた事業活動、そして、短い期間ではございま
すが市議会議員として積み重ねてまいりました経験を基礎として、燕市民7万5千人の代表として、市民一人ひとりの声を大切にし、課題解決に全力で取り組む覚悟であります。時には市民の皆さまの先頭に立ち、また時に後ろ盾となりながら、市民の皆さんと力を合わせて未来への道筋を切り開いてまいります。

に加え、安定しない米価の影響を受け、農業経営は厳しい環境に置かれています。また、教育に目を向けていますと、近年、発達障がいへの認知が進んできたという背景もありますが、特別な配慮や支援を必要とする子どもたちが増加傾向にあります。

発注数の減少や物価高騰、人件費の上昇、そして労働力不足に伴い問題となる後継者が必要があり、製造業を取り巻く環境は、依然厳しい状況にあります。

3

2026.01.01

「稼ぐ」「育てる」「繋はひとつ」 未来をひらく3つの市政ビジョン

みんなでつくる燕市を目指していきます

所信表明



清意

まずは、このたびの市長就任にあたり、市民の皆さまから寄せられた信託の重責を真摯に受け止めております。同時に、燕市のさらなる発展とともに、深い喜びと使命感を感じておられる次第であります。

これから約4年間、私がこれまで学校現場での教育活動や、文部科学省への派遣期間

令和7年第4回燕市議会定例会の開会にあたり、所信を述べる機会を賜り、心よりお礼申し上げます。

このたび、合併後の燕市の第3代市長を拝命いたしました佐野大輔でございます。

これまで、私が目指す市政につきましては、選挙運動や私自身のSNSなどにおいて、皆さまにお伝えしてまいりましたが、本日はこの議場において、改めて今後の市政運営の方針、そして私が描く未来の燕市について述べさせていただきます。

以上の「みんなでつくる燕市」を旗印に、「稼ぐ燕市」「育てる燕市」「燕はひとつ」という3つの目指すべき方向性の実現を目指すため、地域の皆さまのご協力をいただきながら職員を育てるといった、地域に根ざした職員の育成に力を注いでまいります。

行財政改革等



は、ご好評をいただいている
金属加工製品に加えて、農産
物や飲食品を返礼品として充
実させ、多くの方に繰り返し
ご寄附いただけるよう取り組
んでまいります。

積立基金については、これ
までの定期預金に国債等の債
券を組み合わせて、より効果
的な運用を進めてまいります。

以上のような政策以外に
も、市民の安全・安心を守り

ます。自助・共助・公助の連



サービスのさらなる向上を指すと同時に、業務を効率化し、政策立案に集中できる環境を整備するためにも、Aの活用などDXを一層推進してまいります。

10

サービスのさらなる向上を指すと同時に、業務を効率化し、政策立案に集中できる環境を整備するためにも、Aの活用などDXを一層推進してまいります。

ことは、地域全体の結束を強めるとともに、結果的に燕市全体の活性化へと繋がる重要な要素です。こうした地域の活性化により未来を担う子どもたちが、「燕市に戻りたい」、「地域で暮らしたい」と思うきっかけとなるよう、各団体への活動支援をさらに充実させてまいります。

さらに、行政の役割として重要なのは、市民の皆さんと真摯に向き合い、政策の企画・

1つ目は、【子育て支援のさらなる拡充】であります。燕市は、これまで『子育てるなら燕市で』を旗印として先進的な子育て支援に力を注ぎ、今年の夏には『うさぎもちハレラテつばめ』を完成させるなど、さまざまな政策を展開してきました。

① 子育て支援の さらなる充実

【充】であります。
2つ目の柱は、【障がいのある子どもたちへの支援の拡充】
② 障がいのある子どもたちへの支援の拡充
子どもたちを育てる保護者の皆さまを支える子育て支援策を一層拡充してまいります。
減少が進む中で生まれてくる子どもたちを、そしてその子どもたちを育てる保護者の皆さまを支援する充実を子育て施策のさらなる充実を目指す必要があります。人口を打ち出す中、燕市としても

② 障がいのある子とおうちへの支援の拡充

元実を
しても
人口
くる
その子
者の皆
策を

私は、「いわゆる『障がい』は、その人にあるのではなく、社会の側にある」という考え方のもと、障がいのある方にとって住みやすい街は、すべての人にとって住みやすい街になると常々考えてきまし

燕市は今年度から5歳児健診を開始し、特別な支援や配慮を必要とする子どもの早期発見・早期療育に取り組んでいます。この施策をさらに充実させるため、専門的な資格をもつ人材を活用し、自立支援を一層強化してまいります。

また、医療内ケア児や重症

軽減を図るとともに、子どもたちが生き生きと成長できる社会の実現を目指してまいります。

場を増やしてまいります。また、先輩世代が築いてきたまちづくりの実績を私たち世代が受け継ぎ、参画する仕組みを構築するとともに、新たな官民一体の取り組みも進めてまいります。

また、市民の皆さまにとって最も身近なまちづくりの場として、自治会やまちづくり協議会などの活動があります。一つひとつの自治会やまちづくり協議会が活性化する

トンを手渡せるよう、
さらには100年先へ繋がる
道筋を見据え、全身全靈をか
けて市政に取り組んでまいり
ます。

ぜひ市民の皆さん、そして、
議会の皆さん、共に手を携え、
魅力ある燕市をつくってまい
りましょう。なにとぞ皆さん
方のご指導とご支援を切にお
願い申し上げ、私の所信表明
の結びといたします。

A wide-angle photograph of a modern architectural complex under a clear blue sky. The main building features a long, low-profile roofline with a large glass facade on the left side. To the right, there is a lower building with a light-colored, textured facade and a glass-enclosed entrance area supported by white columns. A paved parking lot with several white lines is in the foreground, and some greenery and trees are visible on the left.

3 燕はひとつ

3つ目の目指すべき方向性は、「燕はひとつ」であります。燕市は、間もなく合併20周年

7 | 2026.01.01

2026.01.01